

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	熊本県	市町村名	大学名
派遣日	令和4年10月26日(水曜日) 13:20~16:30 13:20-13:30 開会行事(10分) 13:30-14:10 講義1(40分) 演題:日本語指導の必要性-「見えない子どもたち」をなくすために 講師:京都女子大学 助教 滑川恵理子 氏 14:10-14:20 休憩 14:20-15:20 講義2(60分) 演題:日本語指導の実際~初期指導から教科指導へ 講師:NPO法人 15:20-15:40 講義2に関する解説(20分) 講師:京都女子大学 助教 滑川恵理子 氏 15:40-16:10 グループ協議(30分) 「みなさんの身近にいる外国につながる子どもはどんな様子ですか」 16:10-16:20 講評(10分) 京都女子大学 助教 滑川恵理子 氏 16:20-16:30 閉会(10分)		
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="radio"/> 派遣 / <input type="radio"/> 遠隔		
派遣場所	水前寺共済会館(芙蓉)		
アドバイザー氏名	滑川 恵理子 (京都女子大学国際交流センター 助教)		
相談者	熊本県教育委員会		
相談内容	・ 教員研修の講師をお願いしたい。 ・ 研修の対象は、教員及び関係市町村教育委員会担当者を予定。 ・ 研修は日本語教育支援連絡協議会であり、県主催となるが、どのような内容にすれば、参加する現場の先生や市町村教育委員会担当者が実践していけるか、立案の段階から助言いただきたい。 ・ 県内の日本語指導についてノウハウを持つNPO法人にも助言をもらいながら研修が充実するようにしたいので、研修の内容を組み立てて行く際にも助言をお願いしたい。		
派遣者から	○「日本語指導の必要性『見えない子どもたち』をなくすために」という演題で講演		

の指導助言 内容	<p>していただいた。内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">・見えない子どもたちは、「子どもは自然にことばを覚えるから特別な指導は不要」と考えられ、日々問題を起こさないため、いつしか「周辺」に追いやられ、困難に気づいてもらえない子どもたちのこと。・子どもは自然に新しい言葉を覚えるわけではない。学習言語の発達には時間を要する。日常生活と教科学習との隔たりがあり、日常生活で問題を抱えていないことと教科学習への参加は別次元。文化の隔たりもあり、一般的な日本人の子どもがわかる例示や体験的知識などを母語に訳しても、文化的な背景の違いから理解が難しいものもある。・「周辺化」の深刻さ。「分かりました」は本当に分かっているのか。・文科省の調査より。公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数は令和3年に過去最高を記録。日本語指導が必要な児童生徒のうち学校において特別の配慮に基づく指導を受けている者の割合が、平成30年度には外国籍79.5%、日本国籍74.4%であったが、令和3年度にはそれぞれ、90.9%、87.8%と上昇している。「見えない」状態は少しずつ改善。高校生等の中退・進路状況が改善。依然として「見えない」状態も。・日本語指導を通じて、子どもが抱える困難や様々な問題が「見えて」くる。母語に訳して説明するだけでは、困難さや問題は顕在化しにくい。・日本語のフォーマルな「型」を自然習得に任せていては時間がかかりすぎる。・日本語指導は単に言語として日本語を教えるのではない。言語と文化は切り離せない。言語に伴う文化や考え方（価値観など）を注視しつつ指導することが必要。 <p>○NPO 法人の発表に対する解説をしていただいた。内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none">・NPO 法人の発表内容は、「日本語指導の実際」～日本語指導から教科指導へ～・日本語の初期指導が終わっても子どもたちの困り感は続く。・実際の授業（算数、理科、国語読解）で子どもたちがなぜ困っているのかについて解説。・小学校2年生算数で、時刻と時間を学習するが、時計の「はり」や6時間前というような時刻の「前」等がわからない。「はり」は英語ではhandsと表現するため。・小学校3年生理科で、植物の育ち方を学習するが、ヒマワリやホウセンカがなんのことかわからない。中国ではまとめて花と表現することも多い。・小学校2年生国語読解では短文理解が難しい。例えば、「かっていたねこのミミがとつぜん家に帰らなくなった。」という文では、「飼っていた」を「買っていた」と間違えて解釈することがある。「ミミ」が猫の名前だとわからない。「すやすやねていた赤ちゃんがきゅうにおき上がると、よちよち歩きだした。」という文では、「すやすや」や「よちよち」というオノマトペの理解が難しい。オノマトペは文化によって大きく異なるため。 <p>○グループ協議について事前に助言をいただき、議題を「みなさんの身近にいる外国につながる子どもはどんな様子ですか」と設定し、小学校、中学校、教育事務所・教育委員会の小グループに分かれ情報共有及び意見交換を行った。</p>
-------------	---

(様式3)

<p>相談後の方針の変化、今後の取組方針等</p>	<ul style="list-style-type: none">・グループ協議の後、協議内容を全体で共有したが、日本語指導が必要な児童生徒のために「何とかしなければいけない」と考えられ、熱心に学んでおられる先生方が多かった。・学校で当該児童生徒に指導をしなければならないことは分かっているが、指導者が足りないことが課題であるという意見も多く寄せられた。・本県の日本語指導も NPO 法人に頼っているところが多く、NPO 法人は日本語指導ができる人材の確保に苦勞されている。・県として、研修等をとおして日本語指導ができる教師を増やすとともに、市町村への財政面での補助等を行い、日本語教育支援体制をより充実させる必要があると考えている。
---------------------------	---